

— 地域医療レポート —

全国的に医師不足による地域医療の確保が危ぶまれる中、大田地域の中核病院である大田市立病院においても、本年4月から外科及び整形外科の常勤医師が不在となり、外科・整形外科の手術や入院の受け入れが困難な状況に陥り、救急告示病院の指定を取り下げる事態となりました。

現在、外科系の疾患や骨折、交通事故等の高エネルギー外傷の患者さんは、救急車搬送も含め出雲市・江津市・浜田市などの病院へ行かざるを得ない状況です。

減り続ける勤務医…

大田市立病院は、国からの移譲を受け平成11年2月に開院以来、医療従事者の確保はもとより、医療機器等の設備も着実に整備する中で、地域住民の皆様の信頼も獲得し順調に推移してきたところですが、平成15年度に36名いた常勤医師が、今年度4月には21名にまで激減しました。

医師不足、特に地方部の基幹病院における勤務医不足は、島根県のみならず全国的な問題となっています。主な原因は、医師の卒後臨床研修制度の変更により、地方の大学を卒業した医師の卵たちが都市部の大学や病院で研修するため、都市部へと流出していることにあります。

県を挙げての取組み

こうした中、島根県においては、国の「地域医療再生計画」に基づき、医師を「呼ぶ」「育てる」「助ける」の三本柱を掲げ、島根大学を中心とした医学生や臨床研修医師の奨学金制度の拡充や、島根大学医学部への寄付講座の創設、また地域医療機関の医師確保対策への支援や“ドクターヘリ”の整備など様々な対策を講じています。



島根県 医師募集キャラクター「赤ひげ先生」

「ふるさと大田」の医療を守るため！

今、大田市では、この危機的な状況を地域一体となって乗り切るための取組みを始めています。市内の各種団体が一堂に会し、大田市地域医療支援対策協議会が設置され、大田の医療を住民サイドから支える活動が検討されています。また、大田市医師会先生方の輪番による「休日診療当番医」もスタートしました。

今後、市立病院としては、まずは内科系診療科の充実を図り、そして外科・整形外科医師の確保を目指し、一日も早い救急指定の復活に向け、院長を先頭に職員一丸となって取り組んでいきます。

『大田市の地域医療に関心のある医師をご紹介ください！』

※ 募集診療科、処遇ほか詳しいことは、下記担当までお問い合わせください。

大田市立病院 事務部 医療従事者確保対策室 (担当：和田、竹下)

TEL 0854-82-0330(代) / E-mail ohda-net@ohda-hp.ohda.shimane.jp